

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 桜丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

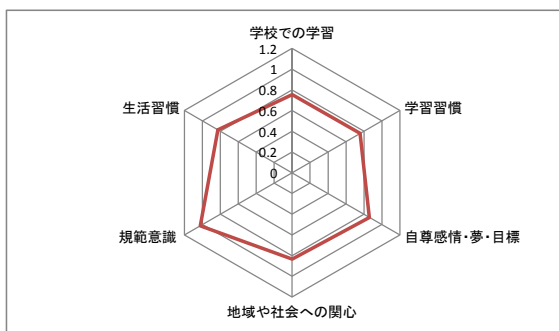
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 「書く能力」は、全国平均正答率を上回っている。 「読む能力」に課題があるが、無回答率は低く、読み取ろうとする意欲は高まっている。 「言語についての知識・理解・技能」に課題があり、正答率が低く、無回答率が高い。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題は、正答率が低く、無回答率も高かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っているが、無回答率が全国平均を下回っている問題が多く、粘り強く問題に取り組んでいる。 記述式の問題は、正答率が低い傾向がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題は、正答率が全国平均に近かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題は、正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っている。「数と計算」領域の正答率が低いが、「量と測定」領域の正答率は全国平均正答率に近づいてきている。 後半の問題は、無回答率が全国平均より高い傾向がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題は、正答率が全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	1に当たる大きさを求める問題は、正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っているが、無回答率は全国平均より低い問題が多い。後半の問題も無回答率が全国平均より低く、粘り強く問題に取り組んでいる。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	グラフから読み取ることができることを、適切に判断する問題は、全国平均正答率に近い正答率だった。	
	努力が必要な問題	メモの情報とグラフを関連付けて記述する問題では、正答率が低く、無回答率が高かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っているが、無回答率はほとんどの問題で全国平均を下回っていて、根気強く問題に取り組んでいる。 「自然事象への関心・意欲・態度」に関する問題では、正答率が全国平均を上回っていた。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ問題は、正答率が全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	川の上流側の天気と下流側の水位の関係を関連付けながら考察する問題は、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 家で学校の宿題をしている児童の割合が全国平均より高いが、家庭学習の時間や計画性に課題がある。 学校のきまりを守っている児童の割合が、全国平均を上回っている。 朝食を毎日食べる児童、毎日同じくらいの時刻に寝る児童の割合が全国平均より低い。 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が低い。しかし、割合は高くなってきている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 全校で、朝自習の時間に漢字の読み書きの習熟や、音読・速読に取り組む。
- 全校で、パワーアップタイムの時間に、計算問題を中心とした算数の練習問題に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 朝食や就寝時間等の生活習慣の重要性について、学校通信や学年通信、学級懇談会等で保護者に伝える。
- 自尊感情を高めるために、「ほめる」ことの大切さを学校通信や学年通信、学級懇談会等で保護者に伝える。